

参 考 资 料

編集後記

調査研究会へ参加することにより、訪問先の自治体や参加自治体の危機管理体制について学べただけでなく、相模原市の危機管理体制について改めて見直すことができました。そして何より、共に調査研究を進めてきたメンバーに出会えたことが大きな収穫であると思っています。短い間でしたが、楽しく有意義な時間を本当にありがとうございました。

また、業務多忙の中対応していただいた訪問先の皆様、さまざまな調整をしていただいた振興協会の皆様、快く研究会へ送り出していただいた所属の皆様、ありがとうございました。

今回得た知識と繋がりを大切にしながら、日々業務に励んでまいります。

増渕 あすか（相模原市）

東日本大震災で被災した石巻に避難所支援へ行った経験から、今回の研究会への参加する動機となりました。

普段の業務は防災関係とはあまり深くなく、また他のメンバーの多くは防災業務に携わっているため、このテーマへの想いも強いものがあり、自分との温度差を感じさせられました。

そのような状況で、なぜか？“チームリーダー”になることとなりましたが、課題のテーマや視察先の検討など、メンバーに助けられ、無事エンディングを迎えることができました。

視察を快く引き受けていただいた自治体の方々に感謝いたします。

青木 聡（茅ヶ崎市）

この課題テーマ別調査研究に参加し、他自治体の職員と触れ合う機会が与えられたことに感謝します。

そしてそのメンバーたちとの何気ない会話のなかでも他自治体の防災対策にかかわる状況や、取り組みなどの話が聞けて、大変有意義な時間を過ごせたと感じています。この研究で得られた経験や他自治体等の仲間たちは自分にとって財産となりました。これからも行政の仕事を進めていく上で、迷ったときや、行き詰

ったときには、その仲間たちを頼りにし、自分の仕事に活かしていければと思います。

橋本 裕功（三浦市）

阪神・淡路大震災からまもなく 20 年という節目の時期に、神戸市を始めとする被災地を訪問し、この震災がもたらしたものは何か、教訓を踏まえた防災対策をどのように講じていけばよいのか、改めてその意味を問うことができたのは、自分自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

また、今回の研修ではメンバーにも恵まれ、毎回の研究会終了後に横浜の地で、良い（酔い？）思い出をたくさん作ることができたことに感謝しています。

防災対策に終わりはありませんが、この研修で学んだ教訓と良き仲間たちとの交流を絶やさずに、地に足をつけてしっかりと取り組んでいきたいです。

秋吉 宏二（厚木市）

日常の業務は防災とは無縁な部署であり、「防災用語」の飛び交う研修についていくことは大変でしたが、青木リーダーを始め、メンバーの皆様に助けていただき、また、田中さんの素敵な笑顔に癒されることで、何とか研修を乗り切る事ができました。

この素晴らしい仲間に出会え、有意義な時間を共に過ごすことができたことは私の財産であり、このような機会を設けていただいた振興協会の皆様、ならびに訪問先にてご対応いただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

宮嶋 正幸（大和市）

視察先の自治体では、日頃の業務の中に災害時を想定した事項が多く取り入れられていたことが印象的でした。これらの取り組みは、神奈川県自治体職員にとっては馴染みがなく、被災経験を有する自治体で、災害時に行われていた最低限必要な事務ですら経験したことがない先進的な事務であったりしました。「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、正にそのとおりであると実感しました。日本ではいつ災害が発生してもおかしくありません。「被災」という辛い経験

を、今後のまちづくりに活かすためにも、視察先自治体の経験から生まれた多くの取組みや施策をしっかりと受け止め、自らのまちの施策に反映させていかなければならないと思います。

また、今回研修に参加し他の自治体職員の方々と多くの「つながり」がもてました。この「つながり」を大切にしながら、今後の自らの業務に取り組んでいきたいと思います。

久保寺 規雄（海老名市）

「震災からの復興 20 年の時を超えて」と本誌のサブタイトルにもありましたように今回私たちは、視察で 1995 年の時に戻って震災の様子を垣間見ることが出来た気がします。20 年という時の流れが、人々の心の中から震災の記憶を消し去ろうとしていますが、経験と教訓を忘れることなく世代に「伝える」、被害を可能な限り減らすため市民等総ぐるみで「備える」、震災後を生きるため「蓄える」、そして大規模災害で得た教訓や経験を訓練や研修に組み入れ、減災や防災に「活かす」という課題に積極的に取り組んでいる姿勢が、訪れた先々で強く感じられました。

今回研究員として集まった優秀なメンバーからの助言、視察先で得られた数々の教訓を、今後の防災職務に役立てて行きたいと思います。

山口 行男（箱根町）

調査研究を終えて

「課題テーマ別調査研究（国内）」は、平成24年度からスタートした事業で、その前年に発生した東日本大震災を教訓とした防災対策の充実が求められる中、「大規模災害における自治体のあり方」を課題テーマとし、1年目は自助・共助・公助のあり方について阪神・淡路大震災及び中越地震の被災地へ、2年目は避難所の開設、運営について東日本大震災の被災地を訪問し、現地の調査、研究を行った。3年目となる今回は、阪神・淡路大震災の被災地である神戸市、西宮市、淡路市を訪問し、各市で行っている先進的な事例等について調査研究を行った。

研究員は、県内の市町長から推薦された7名の職員で、6月から月1回程度集まり研究会を開き、その他に電子会議室等を利用し、各自で文献やインターネットを活用して集めた資料で情報交換をしながら研究を進めていった。

公務多忙の中、10月の現地調査に向け、数少ない研究会で研究の方向性を定め、調査項目を取りまとめ、訪問先等決めるのは大変な事だったと思うが、研究員がそれぞれの個性を發揮し、お互いに協力し合い、とても良い雰囲気の中それらの作業を進めることが出来た。研究員同士、市町村の枠を超えた良い関係を築くことが出来たのもこの研究会の成果の一つである。

現地調査では、訪問したそれぞれの市の担当の方々には、幅広い質問事項にも関わらず、細かく丁寧に説明していただいた。また、研究員の熱心な質問と担当の方々のやり取りが盛り上がり、予定時間を大幅にオーバーしてしまうという場面もあった。3日間の現地調査は、研究員の皆様の温かいご協力のおかげで、アクシデントもなく、無事に終えることができた。



淡路市防災あんしんセンターにて

現地調査終了後、研究会を重ね、その成果をこの報告書にまとめた。

今後、研究員の皆様が、この研究成果をもとに活躍されることを願うとともに、この報告書が自治体の施策の参考になることを期待したい。

最後に、この課題テーマ別調査研究の実施に当たり、研究員の研究会への出席にご配慮いただいた職場の皆さま、お忙しい中、調査に協力していただいた訪問先の方々、そして研究員の皆様に心から感謝を申し上げたい。

事務局 田中茂子

平成26年度 課題テーマ別調査研究（国内）実施要領

（目的）

第1条 本格的な地方分権時代を迎え、地方自治体はますます自立と独自性が求められ、行政の様々な分野での変革を迫られている。

そこで、県内各自治体から、課題テーマに高い関心と強い意欲を持っている職員を研究員として募り、これから求められる政策課題について国内での現地調査を含む調査研究により、地方分権時代に対応した具体的施策の提言を求める。

（対象職員）

第2条 対象職員（以下「研究メンバー」という。）は、神奈川県内市町村の職員で、課題テーマ（別紙1）に関連する職務に現在従事している者、又は課題テーマの調査研究に取り組む意欲がある者で、市町村長から推薦を受けたもの。

（募集人数）

第3条 募集する研究メンバーは、原則として1市町村から1名とする。

（調査研究方法等）

第4条 調査研究方法は、次のとおりとする。

- （1）調査研究期間は平成26年度中とし、概ね9日間程度の研究会を開催し、必要に応じ3日間程度は国内での現地調査に充てるものとする。
- （2）具体的な調査研究方法及び日程は、（別紙2）の「調査研究の方法及び研究会の開催計画（予定）」のとおりとする。
- （3）研究会において、調査研究に当たり必要があるときは振興協会と協議し、当該課題の専門家を講師として依頼することができるものとする。

（調査研究結果のとりまとめ）

第5条 研究メンバーは、調査研究結果を取りまとめ、研究報告書を作成する。研究報告書は振興協会が全市町村に送付する。

(経費の負担)

第6条 調査研究に係る直接経費は協会の規程等に基づき全額(日当は除く。)協会が負担する。

附 則

この要領は、平成26年4月1日から適用する。

(別紙1)

平成26年度課題テーマ (ねらい)

【テーマ】

大規模災害における自治体のあり方

【訪問先】

大規模な自然災害の被災地等

【ねらい】

近年、東日本大震災をはじめ行政の危機管理の想定を超える規模で災害が発生しており、神奈川県も首都直下地震や気候変動による大規模水害等の脅威にさらされている。行政職員は大規模な災害にあっては、自身も被災し、行政機能が失われるような状況の中にあっても、住民の生命、身体、財産等をいかに守るかが求められている。

現在、各自治体においても東日本大震災を踏まえての新たな視点で地域防災計画等の見直しを図っているところである。

そこで、過去に発生した大規模な自然災害を体験した市町村や先進的な取り組みをしている市町村等から、事前の策や災害直後の対応について学び、各自治体における今後の災害に強いまちづくりに活かすことを目的とする。

(別紙2)

調査研究の方法及び研究会の開催計画

1 調査研究の方法

(1) 集合研究会として、主として振興協会会議室（横浜市中区山下町75 神奈川県自治会館）にて随時行う。

なお、必要に応じ、上記以外に説明会・打合せ等を開催することがある。

(2) その他の調査研究

① 電子会議室による情報交換を常時メンバーで行う。

② 自己研究

③ 情報・資料収集（インターネット、図書、新聞、雑誌など）

(3) 国内の現地調査

上記(1)(2)の調査研究に加え、国内での先進事例や参考事例となる地域の現地調査を行う。

2 研究会の開催計画（予定）

(1) 説明会及び研究会

第1回 平成26年6月11日（水）

(2) 研究会 平成26年7月から平成27年2月まで（5回程度）

第2回 平成26年7月9日（水）

第3回 平成26年8月6日（水）

（第4回以降の研究会開催日は、研究員により決定）

(3) 国内現地調査

平成26年10月（予定）（3日間程度）

○研究日程

説明会及び第1回研究会

平成26年6月11日（水）

- ・オリエンテーション、調査研究の進め方について

第2回研究会

平成26年7月9日（水）

- ・調査訪問先、調査内容の検討

第3回研究会

平成26年8月6日（水）

- ・専門家によるアドバイスと意見交換
茅ヶ崎市市民安全部防災担当参与 佐藤喜久二 氏
- ・調査訪問先における調査項目の検討

現地調査

平成26年10月29日（水）から10月31日（金）

- ・別紙「現地調査日程」

第4回研究会

平成26年11月20日（木）

- ・調査報告書の構成、取りまとめ方の検討

第5回研究会

平成27年1月7日（水）

- ・調査報告書の取りまとめ

第6回研究会

平成27年1月22日（木）

- ・調査報告書の最終取りまとめ

○現地調査日程

第1日目：10月29日（水）

（午後）「西宮市役所」訪問調査

第2日目：10月30日（木）

（午前）「神戸市役所」訪問調査

（午後）「人と防災未来センター」見学

第3日目：10月31日（金）

（午前）「淡路市役所」訪問調査

（午後）「北淡震災記念公園」見学

○研究会メンバー表

市町村名	氏名	所属・職名
茅ヶ崎市	リーダー 青木 聡	施設再編整備課 課長補佐
大和市	サブリーダー 宮嶋 正幸	広報広聴課 主査
相模原市	増渕あすか	危機管理課 主事
三浦市	橋本 裕功	防災課 主任
厚木市	秋吉 宏二	危機管理課 主任
海老名市	久保寺規雄	企画財政課 主任主事
箱根町	山口 行男	総務防災課 副主幹
(事務局)	田中 茂子	(公財)神奈川県市町村振興協会 主査

